
 学内活動報告

 順天堂大学保健看護学部 順天堂保健看護研究 6
 P.45-52 (2018)

新入生スタートアップセミナー「仁 (JIN) への道」の 作成プロセスとその効果

The process of creating "The way to JIN (Humanity)" as Start-Up Seminar for Freshman Students and its effects.

 辻川 比呂斗¹⁾ 中村 剛²⁾ 江川 潤³⁾
 TSUJIKAWA Hiroto NAKAMURA Tsuyoshi EGAWA Jun

 林 亮¹⁾ 鈴木 江利子¹⁾ 長沼 淳¹⁾ 小川 薫¹⁾
 HAYASHI Ryo SUZUKI Eriko NAGANUMA Atsushi OGAWA Kaoru

要 旨

順天堂大学保健看護学部（以下本学部とする）では、2010年の開学時以来、新学期に入ってから新入生向けの研修会（新入生キャンプ）を実施してきた。2日間の宿泊研修を通して、学生生活のスタートアップを円滑にするためのプログラムが実施され、効果的であった。しかしながら、上級学年における学生自身の問題に対する取り組み方が課題となり、「大学生としての心構え」や「主体性を育む」ことを伸ばすことの出来るプログラムをワーキンググループ中心に検討することとなった。チームビルディング体験を元とした初年次教育プログラムを取り入れつつ、本学部独自のプログラム、新入生スタートアップセミナー「仁 (JIN) への道」を紹介すると共に、これまでの新入生研修会の効果について、コミュニケーション・スキルと日常生活スキルといった観点から検証した。

索引用語：初年次教育、チームビルディング、主体性、アクティブラーニング、
コミュニケーション・スキル

Key words：First-Year Experience, Team Building, independence, Active Learning,
Communication Skills

1. はじめに

1. 本学部における初年次教育（新入生キャンプ）について

順天堂大学保健看護学部ではこれまで、「新入生同

士、さらに新入生と諸先輩および教職員との交流をはかり、学生生活を円滑にスタートさせることができるようにすること。またレクリエーションスポーツ、グループディスカッションを通して、自己を表現するとともに、他者を思いやり、理解することができるようにすること」を目的とした新入生キャンプ（以後、FCとする）を実施してきた¹⁾。FCでは、セラピューティックレクリエーションプログラム²⁾を取り入れ、軽運動を取り入れたアイスブレイキングや課題解決型

1) 順天堂大学保健看護学部

2) 武蔵野大学教育学部

3) 神田外語大学

1) *Juntendo University Faculty of Health Science and Nursing*

2) *Musashino University*

3) *Kanda University of International Studies*

(Nov. 10, 2017 原稿受付) (Jan. 19, 2018 原稿受領)

ゲーム（Action Socialization Experience: ASE）など「個人活動からグループ活動」に移行するとともに、スタッフの介入度をグループの到達段階によって変化させることで、自分達で解決できるような体験をする内容で形成していた。平成22年に開学した保健看護学部のFCプログラムは、マイナーチェンジを繰り返す中で洗練され、その効果は新生活をスタートする学生には大変有意義であったといえる¹⁾。保健看護学部の完成年度を向かえた上で、従来のFCに囚われない新たな視点でプログラムを再検討していくことを目的として、学生部委員長のもと、初年次教育としての新入生キャンプを活用すべく新たにワーキンググループ（以後、WGとする）を設置され、検討を重ねた。

2. 課題

WGでは、臨地実習、学内講義・演習、自治会活動およびクラブ活動などでの学生の取り組み方に対して、幾つかの課題が挙げられ、主なものを下記に挙げる。

① 大学生としての学習心構え

高校生生活からの意識から抜け出せず、入学をしたものの何事にも「やらされている感」があり、大学生活へのネガティブな感触を感じる。

② キャリアについて

1年生から4年生までの看護師としての学びの「繋がりを」を学生が持てるようになって欲しい。

医療チームの一員として、現場において活躍できる基本的な学習スタイルを感じてほしい。

③ 社会人としての基本的態度

課題意識・課題発見・課題解決力の欠如、コミュニケーション能力、対人スキルの低さ、協調性・汎用力

④ 主体性を育む

自発性、アクティブラーニングの下地作り

以上より、新入生キャンプの目的として、大学生としての学習の心構え、主体性を育む、に重点を置くプログラムへと再構築する方向で話し合われた。

3. プログラム

主体性を育み、大学生としての学習に対する心構えをどのように築き上げるかというところで、初年次教育で成果の挙げている武蔵野大学・中村剛先生^{3) 4)}にアドバイザーとしてWGに入ってもらい、チームビルディングの手法⁵⁾を用いた新たなプログラムの構築が検討された。学生の主体性を向上させるために、“何のためにこの学部に入ったのか”と改めて目的を認識すること（自己理解）があり、他人と自分との価値観の違いを認識して、受容すること（他者理解）、グループがチームとして目的意識を持つという「体験」が必要と考えられたためである。

そこで「自己理解から他者理解への発展」、「チームビルディング体験」、「より深まる自己理解」、「振り返りの重視」を盛り込んだ内容で、下記のような目的とプログラムが構成された。「大学生として新たな生活が始まる中で、自己理解・他者理解を深め、主体的に学習するための心構えを身につける。」事を目的とし、新入生スタートアップセミナー「仁（JIN）への道」【今の自分 なりたい自分】（以後、FSとする）というタイトルとなった。内容は現状の自分を見つめ直し、他者とのこれまでの生きてきた過程、価値観などの違いを認識した上で、自らの課題設定とそれに対する行動目標を立てる事が主体性の向上につながる一歩として構築された本学部のオリジナルプログラムとなった（表1）。

4. 新入生スタートアップセミナー「仁（JIN）への道」実施について

メインの講師は中村先生の他、チームビルディングに精通している専門家の講師2名が担当し、本学学生部委員は実行委員として、運営補助を担当した。プログラムのメインとなる部分について内容やねらいについて紹介する。

表1 新入生スタートアップセミナー「仁(JIN) への道」プログラム

1日目		2日目	
9:00	1. オリエンテーション 2. グルーピング 3. 自己紹介 4. グループワーク①「私たちの共通点！」 5. 「今の私・なりたい私①」 6. グループワーク②「総当りインタビュー」	9:00	1. グループワーク④「コミュニケーション」 2. グループワーク⑤「アイドルを探せ！」 3. 「今の私・なりたい私③」 「今の私たち・なりたい私たち②」
昼食		昼食	
13:00	7. 自己理解①「エゴグラム」 ②ライフポジション 8. グループワーク③「アッセンブリー」 9. 「今の私・なりたい私②」 10. 「今の私たち・なりたい私たち①」	13:00	4. エール交換 5. 「今の私・なりたい私④」 6. アクションプラン 7. 全体発表
17:30		17:30	→集合写真

【グルーピング】

プログラムが始まるにあたり、最初に主体性を問われ、考えるきっかけとなる機会となる。インストラクションとしては、120人を3クラスに分け、そのクラスの中で「6～7人のグループをみんなで創って下さい」ということを伝え、合計で6組程度ができる。既に知り合いである学生同士のところもあれば、あえてまだあまり知り合えてない者同士を望むグループもある。それぞれの主体性に最初に特徴が見え隠れする場面となる。

【自己紹介ワーク】 & 【グループワーク (GW) ①：私たちの共通点！】

A4用紙で名札を作成し、「氏名」、「自分を表すこと（趣味や好きなことなど）」、「2日間で取り組みたいこと」、「こんな看護師になりたい」などを担当講師からインストラクションされ、それに基づいてまず「自己理解」を深めつつ、名札を作成した。それをを用いて自己紹介を行い、互いの共通点を探すプログラムとなり、同じ好きなものでも深く話すと異なることや、違っているようで実は一緒であるなど、共通点を見つけたグループ名を決めるという作業で、互いに対する認識が芽生える内容であった。

【今の私・なりたい私①】

今回、振り返りのツールとして「今の私・なりたい私」というツールが用意された。ねらいとして、プログラム開始時点から本人が感じる「今の私・なりたい私」は、プログラムを進めていくプロセスで、少しずつ変化・変容していく。最初と同じ内容のままの可能性もあるが、その中身は深まることを自認出来るものであった。

【GW②：総当りインタビュー】

ここでのねらいは、これまでのプログラム【自己紹介】、【私たちの共通点！】で表面的な互いの情報や「今のわたし・なりたい私」という現状を伝え合ったことを更に深め合うというものである。

進め方は、グループ内で1対1になって話ができる場づくりを設定して、制限時間を設け、全員がメンバー全員にインタビューを行う。インタビューテーマはWGで話し合わせ「新入生に語り合ってみて欲しい」という想いの深いテーマ13項目であった(図1)。そのテーマの中からどれか一つを選び、それについて互いに語り合ってもらおうという進め方となる。この場合のアドバイスとして、「いくつものテーマを質問形式で行うのではなく、一つのテーマについてじっくり

話し合ってみてはどうか」と担当講師からインストラクションされた。

【自己理解（交流分析）①エゴグラム、②ライフポジション】

自分のエゴグラムのパターンを知り、どのような傾向があるかを知ることや、ライフポジションについて学びつつ、どのように他者と関わるかの傾向を知る機会となった。

図1 インタビューテーマ（13項目）

【話し合いのテーマ ～お互いに知り合うために～】

1. 私が今、一番楽しいと思うことは？
2. 私が今、大切にしていることは？
3. 私にとって許せない（認めがたい）と感じる行動、事柄とは？
4. 私にとって大学とは？
5. 私が大学に入ってやってみたいと思うことは？
6. 私が看護師・保健師を目指したのはなぜ？きっかけは？
7. 私がなりたいのはどのような看護師・保健師？
8. 私（自分）の名前の由来は？自分の名前についてどう思いますか？
9. 私（自分）の好きなところ、嫌いなところは？
10. 私の生まれ育ったところは？どのようなところ・
11. 私にとって家族とは？
12. 私が他の人よりできると感じるのはどのような時、ところ？
13. 私がいつも繰り返す失敗は？

【GW③：アッセンブリー】

本ワークは、課題解決型のミッション系ワークとなる。ねらいは、決して一人では解決し得ない課題に対し、グループ全体で考えを発信、受け容れあいながらコンセンサス（合意）をする体験を共有するというものである。具体的には、時間制限や言語でのコミュニケーションが制限される中で、各班に配布された多種多様なパーツを組み合わせ、全員が同じ形と大きさのある「形」を完成させるというものである。また、ルールとして言語でのコミュニケーションが取れない条件で行う。そのやり取りの難しさの中で課題達成へのプ

ロセスを追うと自己理解（交流分析）①エゴグラム、②ライフポジションで自らの特徴と出会えた者や、そんな自分に気づけず困り気な者もいた。この段階において、各班がただの集団（グループ）から少しずつチームへと変化していくチームビルディングの一步が垣間見えた。

【今の私たち・なりたい私たち①】

1日を通して「自己理解」を深め、課題解決をするために「他者理解」し始めた中で、課題の共有化をする時間となり、学生同士の新たな気づきが生まれた初日の総合的な振り返りの時間となった。

【GW④：コミュニケーション】

このワークは一日目の体験を振り返りつつ、特にアッセンブリーのワークでの成功体験、未達成体験、その過程で何が起きてそうだったのか、ということを検討する機会となった。内容は、10問のコミュニケーションを取る際に起こりうるシチュエーションを挙げ、4つの妥当解から、最適解と思うものをグループ解答として合意形成するワークである。自分達の交わした言動や内容、それらの発信、受け容れあう姿勢など、このワークの中での質問を通して、自分や自分達の特徴がより強く感じ取れたグループとあまり感じられなかったグループの違いが見受けられた。

【GW⑤：アイドルを探せ！】

このワークは、①制限時間設定される、②メンバー各自がそれぞれ違う情報カードを持つ、③順番や回数は自由に口頭でやり取りする、④カードを他のメンバーに渡したり見せたりすることはできない、⑤情報をどこかに総括的に書き出すことはできないことというルールのもとで「とある地図」を完成させるというものである。2日間のプログラムメニューの中で、GWとしては最終的・総合的なものであり、これまでのグループ内での自己理解と他者理解、集団（グループ）からのチームへのチームビルディング体験の深さなどが発揮される場面となる。

断片的な情報からグループで協力して、答えを探すワークで、情報共有の重要性や伝え方などどのようにしたらゴールに辿り着くことが出来るか、試行錯誤する過程が重要であるプログラムであった。無理やり仕切る事が必ずしも課題達成に向かえる事でない体験を通して学ぶ機会となった。

【エール交換】

これまで一緒に2日間活動してきたグループ内でそれぞれのメンバーに対して、メンバーの「いいなと思ったところ」自分以外のメンバーが「なりたい私になるためのアドバイス」「その他」という3つのコメントをカードにメンバー全員に向けて書き、それを、個人個人へ順番に読んで手渡し、その場をみんなで見守り共有するという一見とても恥ずかしいやり取りを全員でやるというプログラムである。これまでに互いが意見を交換しあってプロセスがあるからこそ、いただいたエールに対し、嬉しそうにそれぞれに感謝の言葉を掛け合っていた。何か安堵やこんな自分だけ頑張ろうというような自信のようなものすら感じられ、大学生活に対する期待と感動が垣間見えた。

【今の私・なりたい私④】

今の私、なりたい私を今後どのようなしていくかということを実現化していくために、【アクションプラン】の製作を行った(図2)。具体的には1ヶ月後、前期、

後期のなりたい自分に対する目標設定と、②目標達成のための具体的な行動と③振り返りが割り振られているシートの最初の1ヶ月の目標とおよび行動について、各自で設定する時間となった。やらなくてはならない事を見つけることも大事であるが、こうなりたいという目標に向かって行動することができ、担任の教員との面談時にも役立てることができる、FSにおける成果物と言える。

II. 学生部アンケート調査について

学生部委員会ではFCに関するアンケートを取り、次年度以降の運営に対するフィードバックを実施している。本年度も、FSに関して開催時期、内容、自身に対する目標の達成についての回答を得た(表2)。回収率は、参加者126名中124名分の回答となり、98.4%であった。

1. 開催時期・場所

開催時期に関する回答は全参加者124名中90%にあたる111名が「良い」と回答した。肯定的意見として、「4月だとみんなのことを知らないから」、「仲良くなれる」、「新しい友達が作れる。」が多かった。変更した方が良いという理由としては、「入学式前にやったほうがより仲良くなれる。」、「入学したての方が効果がある。」、「1週間早くてもいい。」、「4月頃：初めの土日がいい。」、「授業始まってからきつい。もっと早い時期にやるべき。」、「4月初旬：今の時期だとグループが固まってしまっているため。」との意見が見受けられた。

期間について、「良い」が84名(68%)に対して「その他」が40名(32%)であった。内訳は15名(12%)が「1日開催」、24名(19%)が「宿泊研修を含んだ2日間」であったことから、108名(87%)が2日の研修期間について概ね肯定的であった(Fig. 4)。開催場所については「良い」が104名(84%)であり、「その他」が20名(16%)であった。内訳としてキャ

図2 アクションプランシート

アクションプラン～1年後に「なりたい私」へ向かって～			
名前 _____			
「1年後、私は		なりたいです」	
期間	最初の1ヶ月	前期	後期
目標			
目標を達成する為の具体的な行動			
期間のふりかえり			

ンプ場などの学外での研修施設が15名（12%）、学内でも「運動や身体を動かしたい」という意見も見受けられた。

表2 学生部アンケート結果

1-1.開催環境について	回答人数	
◆良い	111	
◆変更したほうが良い	13	
1-2.期間		
◆良い	84	
◆変更したほうが良い	40	
	1日	15
	2日(宿泊研修)	24
	3日以上	0
	未記入	1
1-3.場所		
◆良い	104	
◆変更したほうが良い	20	
	学内	2
	学外	15
	未記入	3
2.プログラム内容		
◆良い	112	
◆変更したほうが良い	12	
3.皆さん自身について		
◆よくできた	73	
◆できた	48	
◆あまりできなかった	1	
◆できなかった	1	
◆未記入	1	

2. プログラム内容

プログラム内容について112名（90%）が「良い」と回答し、「自分を知るいい機会になる。（16名）」と肯定的意見も多かった。「変更したほうが良い」とする12名（10%）の理由として、「レクなどで身体を動かしたかった。（2名）」、「やることは楽しかったけどそんなにすぐには自分が変わるわけではない。」「仁への道」が「なりたい自分」につながるか不明」という意見もあった。

3. 皆さん自身について(プログラムに対する振り返り)
「皆さん自身について」という質問に対して、「よくできた」73名（59%）、「できた」48名（38%）と121名（97%）が肯定的であった。「いつも関わらない人と関わられた、新しい友達ができた。（12名）」、「自分について知りながら相手のことを積極的に知ろうと努力できたため。（8名）」、「自己理解ができ、これからどうすべきかわかることができたから。（7名）」といった記載が目立っていた。

III. コミュニケーション・スキルおよび日常生活スキルについて

FC および FS の事前ガイダンスの際（約3日前）に、コミュニケーション・スキル（以後、CS とする）および日常生活スキルに関する説明を行い、同意の有った学生に回答してもらい、プログラム終了後にも同じ調査を実施した。倫理的配慮として、強制的にならないよう、自由意思によること、協力しなくとも不利益は被らないこと、データの2次利用について望まない場合、拒否できるようにチェックボックス「」を設けた。

1. 測定項目

- 1) コミュニケーション・スキル尺度は、①自己統制尺度、②表現力尺度、③解読力尺度、④自己主張尺度、⑤他者受容尺度、⑥関係調整尺度の各4項目、24項目構成のコミュニケーション・スキル⁶⁾を用いて「かなり得意=7点」から「かなり苦手=1点」までの7件法によって回答を求め、そのまま得点化した。
- 2) 日常生活スキル尺度（大学生版）は、①親和性尺度、②リーダーシップ尺度（対人スキル）、③計画性尺度（個人スキル）、④感受性尺度（対人スキル）、⑤情報要約力尺度（個人スキル）、⑥自尊心尺度（個人スキル）、⑦前向き思考尺度、⑧対人マナー尺度（対人スキル）の各3項目、

24項目で構成された島本および石井によって開発された4件法による大学生における日常生活スキル尺度⁷⁾を用いた。各項目は「とても当てはまる=4点」、「わりと当てはまる=3点」、「あまりあてはまらない=2」、「全然あてはまらない=1」によって回答を求めた。

統計処理はWilcoxonの符号検定を用い、実施前(pre)と実施後(post)とで比較した。有意水準は危険率5%未満とした。

2. CSと日常生活スキルの変化

平成28年度までのFCの効果を検証するため、FCの実施前後でCS尺度と日常生活スキル(表3)について、有効回答数97名分について分析を行った。セラピューティックレクリエーションプログラムを取り入れていた2016年までのFCでは、CSにおいて「他者受容以外の項目」が有意に高値を示していた。また

日常生活スキルの個人スキルについて、低値であった「自尊心」が上昇し、対人スキルでは「感受性」および「親和性」が有意に上昇した。同様に、平成29年度に実施したFS実施前後でのCSと日常生活スキルについても有効回答数62名分の回答を分析し、表3に示した。回答数が異なることや、同じ学生ではないため直接比較することは出来ないが、FSを実施した結果、CSでは、他者受容の項目も増加した(p<0.003)。解読力が有意な増加していなかったが、元々の値が高めであったことが原因かもしれない。また、個人スキルの前向き思考や対人スキルにおけるリーダーシップも有意に増加した(p<0.003)。回答数が少なかつた理由は、プログラム終了時刻が部屋毎に異なっており、終了が遅かつたクラスの学生からのアンケート回収箱への提出が少なかつたためと考えられ、今後の課題となった。

表3 学新入生セミナー前後のCSおよび日常生活スキルの変化

上位尺度		下位尺度	平成28年度新入生キャンプ(n=97)						平成29年度新入生スタートアップセミナー(n=62)					
			pre		post		pre vs. post		pre		post		pre vs. post	
			Mean	SD	Mean	SD	P値	サマリー	Mean	SD	Mean	SD	P値	サマリー
コミュニケーション スキル	CS	自己統制	4.75	0.83	4.99	0.90	0.0003	***	4.69	0.74	5.15	0.79	< 0.0001	****
		表現力	4.21	1.07	4.62	1.13	< 0.0001	****	4.06	0.94	4.78	1.13	< 0.0001	****
		解読力	4.90	0.98	5.20	1.02	0.0004	***	5.06	0.76	5.26	0.81	0.0623	ns
		自己主張	3.97	1.00	4.47	1.21	< 0.0001	****	3.89	0.90	4.46	1.16	< 0.0001	****
		他者受容	5.37	0.84	5.44	0.92	0.3947	ns	5.34	0.77	5.65	0.78	0.0022	**
		関係調整	4.99	0.86	5.24	0.86	0.0086	**	5.05	0.81	5.37	0.83	0.0038	**
Total score		28.09	4.26	29.87	5.02	< 0.0001	****	27.98	3.54	30.57	4.15	< 0.0001	****	
日常生活スキル	個人 スキル	前向き思考	3.16	0.70	3.21	0.74	0.3711	ns	3.09	0.67	3.28	0.63	0.0017	**
		自尊心	2.39	0.74	2.56	0.81	0.0390	*	2.32	0.62	2.65	0.79	< 0.0001	****
		計画性	2.58	0.70	2.65	0.63	0.2376	ns	2.79	0.63	2.84	0.70	0.4643	ns
		情報要約力	3.27	0.46	3.31	0.50	0.4756	ns	3.35	0.54	3.35	0.69	0.3912	ns
		Total score	11.41	1.88	11.71	2.03	0.0231	*	11.55	1.54	12.10	1.96	0.0003	***
	対人 スキル	感受性	2.41	0.63	2.63	0.70	< 0.0001	****	2.42	0.67	2.76	0.63	< 0.0001	****
		リーダーシップ	2.64	0.79	2.73	0.79	0.0759	ns	2.52	0.75	2.77	0.71	0.0021	**
		親和性	2.52	0.55	2.76	0.62	< 0.0001	****	2.52	0.62	2.81	0.60	0.0005	***
		対人マナー	3.34	0.57	3.34	0.55	0.8903	ns	3.46	0.48	3.44	0.56	0.7856	ns
		Total score	10.91	1.71	11.45	2.01	< 0.0001	****	10.90	1.75	11.78	1.70	< 0.0001	****

Wilcoxon検定 ****: p<0.001, ***: p<0.003, **: p<0.01, *: p<0.05

IV. まとめ

今回、学生の主体性を伸ばす事を目的として、平成28年度から取り組んできた新入生スタートアップセミナーの構築にあたり、大きくプログラムの変更したことについての報告となった。実際にWGを立ち上げ、学部学生の今後を見据えた初年次教育について何度も話し合いを設け、「仁（JIN）への道」というプログラムが出来上がった。特に「他者受容」や「前向き思考」、そして「リーダーシップ」が向上したことは、学生が主体的に仲間と協力して進めていける下地作りが出来たと考えられる。この下地が出来てこそ、カリキュラムとしての各教科におけるアクティブラーニングが実施可能となり、またそれと並行して部活動や自治会活動などの課外活動や学事の際に、積極的に学ぶ・作り上げる姿勢が磨かれるだろう。今後もプログラムのブラッシュアップを図り、学生達によりよい大学生活をスタートアップのみならず、その後の基礎・臨地実習など様々な経験・体験を通して、現場活躍する看護師教育の一助となるプログラムと成るよう、今後も改善していきたい。

最後に平成28年度新入生キャンプWGの先生方、新旧学生部委員会の先生方、また本プログラムの構成に際し、多大なる尽力を頂いた武蔵野大中村先生に感謝の意を表したい。

V. 参考文献

- 1) 辻川比呂斗 他：看護系大学新入生キャンプにおけるセラピューティックレクリエーションプログラムの試み. 順天堂保健看護研究 4, 42-48 (2016)
- 2) Stumbo NJ, & Peterson CA. The Leisure Ability Model, *Therapeutic Recreation Journal* 32(2) 82 1998.
- 3) 中村剛, 熊谷太郎：武蔵野大学における初年次教育「武蔵野BASIS」の効果－自己の探求プログラムの効果検証－. 武蔵野大学教養教育リサーチセンター紀要 The Basis. 5 : 89-100 (2015)
- 4) 中込啓一, 中村剛：「自己の探求」プログラムの効果検証：「ジェネリック・スキル」の評価ツールを用いて. 武蔵野大学教養教育リサーチセンター紀要 The Basis. 6 : 77-92 (2016)
- 5) 北森義明：組織が活きる チームビルディング. 東洋経済新報社 (2008)
- 6) 藤本学, 大坊郁夫：コミュニケーション・スキルに関する諸因子の階層構造への統合の試み. パーソナリティ心理学研究 15, 347-361 (2007)
- 7) 島本好平, 石井源信：大学生における日常生活スキル尺度の開発. 教育心理学研究 54, 211-221 (2006)